

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2571500194
法人名	株式会社ドリエジョ
事業所名	ゆめさとグループホーム
訪問調査日	平成 20 年 7 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 25 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2571500194
法人名	株式会社ドリエジョ
事業所名	ゆめさとグループホーム
所在地	滋賀県蒲生郡日野町西大路井上434-2 (電話) 0748-53-8722

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成20年7月28日	評価確定日	平成20年8月25日

## 【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要( 7月 28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	鎌掛診療所	住井歯科医院	日野記念病院
---------	-------	--------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は広々とした田圃のなかにあるが、近くには日野町中心街、町役場があり横を国道477号線が走っている。広い敷地の中にグループホームとデイサービスを併設し各々木造平屋建てとなっていて前には自家菜園がある。事業所の関係する部門として福祉用具貸与事業、ケアプランサービス、デイサービス、特別養護老人ホーム等が有り高齢者介護にまつわる事業を展開している。今年看護師を採用し医療連携体制を採用、重度化が進んでいく入居者に対する個別ケアを若手職員と高齢職員の組み合わせでうまく対応すると共に、ゆめさとドリームプラン7つの項目(食事、医療、生活動作、身体面等)の内容も一層充実してきており、今後ケア面のさらなる向上発展が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘を受けた理念の共有と日々の取り組みは毎月の職員会議で必ず討議をしている。介護計画の見直しも毎月の職員会議で入居者毎に討議し確実に3カ月毎に見直しをしている。また看護師を採用し医療連携体制加算事業所となったことにより今後医療面での一層の向上を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が参加して自己評価を行い取り組み課題を抽出し、特に重度化が進む入居者への個別ケアを目標に掲げ行動を開始しており、着実に成果を積み上げてゆくことを望みたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	老人会代表者や地元民生委員、地域包括センターの方々に参加して貰いグループホームが実施する行事計画の説明、地域活動や体験ボランティアの募集等を報告し、自己評価外部評価を公表して出席者から意見をもらい事業所の運営に反映している。ただ開催時期が5カ月に1回となっているので、着実に2カ月毎に1回家族の代表者にも参加してもらい実施するよう努力して欲しい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月入居者の状況を知らせる手紙を出し、また3カ月毎に広報誌を送っているが、入居者の状況に変化があった場合は電話で連絡をしている。家族からの意見は訪問時に聴き取ったり手紙の返事を貰い集めている。今後は家族会を結成するなどしてさらなる意見の吸い上げを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民館で開催するお茶会に参加し、町内会の納涼祭に招待してもらい、小学校の運動会や文化祭、音楽会にも出かけ、地域福祉会から見学に来るなど地元との交流は積極的に行なわれている。さらに密接な関係を作る為に現在3カ月毎に発行している広報誌を毎月または隔月発行を検討して欲しい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者が社会参加する喜びを感じて頂けるよう家族、地域と交流を図る」という地域に密着した理念を作成し、住み慣れた家庭環境に近い共同生活を地域の中で続けることが出来る理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務所に掲示するとともに、職員会議やリーダー会議、経営会議等の会議において常に理念に基づいた行動になる様に絶えず話し合いをしている。		理念をカードに作り職員が身に付けて何時でも見られるようにすると共に現在使用している書類の余白に記入するなど工夫も望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小学校との付き合いが5年間続いており運動会、音楽会、文化祭に招待されている。町内の盆踊りや公民館で開催される文化祭やお茶会に参加し地域の人達との交流を深めている。		地域との交流をさらに深めるため広報誌を毎月または隔月発行する事を期待したい。また活動記録(写真・録音・絵・作文等)を残し入居者と地域の人との懇談の時に利用して地域の人との交流に役立つことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い外部評価の結果は全て開示して運営推進会議で説明している。職員は項目ごとに改善取り組み目標を持って推進している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは地域包括支援センター、地区民生委員、老人会代表、事業所幹部で構成し現状の報告を基に意見やアイデアを貰い運営に反映している。但し、5ヶ月に1回しか開催されていない。	○	現在の開催周期は5カ月毎と遅いペースとなっているので、効果を出す為に2カ月毎に確実に開催することと家族代表、自治会長の参加を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターに毎月報告書を持って訪問し現状の説明をして相談に乗って貰う等、密接な関係をもってサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各家族毎に入居者の健康状態、生活状況、金銭等や気の付いた点を細かく手紙として出している。特に気になる事が起こった時には随時電話で報告している。		広報誌を毎月または隔月発行すること、入居者の写真を手紙に同封して各家族に送ることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した時に話し合いをして意見や苦情を聞きだす様にし、また毎月送っている手紙の返事に意見が述べられておりこれを参考にして改善に取り組んでいる。重要事項説明書には内外の苦情窓口が明示している。		家族会を作り運営推進会議に参加して貰い積極的に意見を求めることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を異動する時には2人が半月間共に行動して入居者が慣れた事を確認して引継ぎをし、入居者に影響が出ないように配慮している。若手職員と高齢職員の組み合わせで仕事に取り組む各々の長所を発揮していることが定着率の向上に寄与している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営会議に於いて外部研修会に誰が参加するかを決めて適任者に受講して貰い職員会議の場で発表して職員に広めている。	○	年度計画に於いて各職員の能力向上目標及び育成具体計画を定め、年度計画に基づいて推進を図る仕組みを確立して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東近江介護サービス事業者協議会に所属しお互いのグループホームを年に3～4回訪問し情報交換を通じてお互いの良いところを勉強し互いに啓発し向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みに来た時に家族に現状を見てもらい、家族から入居予定者の状況を聞き、本人と会って話し合いをしてホームを見に来て貰い、さらにデイサービスを利用して貰って職員と充分馴染みになった上で入居を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な煮物料理の作り方、裁縫、折り紙、礼儀作法、靴の脱ぎ方等を教えて貰い人生の先輩としての感謝の気持ちを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や本人と話し合いをして意向を聞いているが、日々の生活から意向を汲み取りながら職員会議で検討して意向を反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は入居者の生活暦を把握するために本人、家族、関係者などと話し合いを行い、結果をゆめさとドリームプランにまとめ担当医、家族とも相談して本人に適した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎月の職員会議で介護計画の討議をして、担当医や家族とも相談しながら3カ月毎に計画の見直しをしている。 この間に状況が変化した時は職員は家族、担当医と相談して計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制事業所として健康管理面ではさらに安心して貰える様になり、家族からの要請があればかかりつけ医への送迎も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行となっているが家族の要請があれば職員が同行している。定期健康診断は毎月診療所から来て受診し緊急時には協力病院へかかっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を採っており入居前に重要事項説明書において医療の看取りに関する指針に基づいて説明している。但し終末医療方針について家族の同意確認印を貰っていない。	○	家族の思いは入居者が重度化し終末期が近づくとコロコロ変わる為、繰り返し話し合いを確認して思いを共有することが大切で話し合いの記録を残すことと、同意確認印を貰うことが必要である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はやさしい言葉かけで、さりげない排泄の介助等に気を配っている。個人情報の利用に関しては重要事項説明書の付属文書に記載し、関連資料は鍵付保管庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日朝に入居者の希望を聞いて、気候の良い時は散歩や買い物、庭の手入れ、デイサービス部門で開催している歌やゲームに参加し、近所の人と話をする等入居者のペースを大切に生活をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
ほんにん					
		○食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本的にデイサービス部門から供給を受けているが週の内3日は職員と共に台所で準備をして共に楽しく食事をした後片付け清掃をしている。		
		○入浴を楽しむことができる支援			
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせた入浴が出来るように考えており、車椅子で一般浴の対応が困難な人にはデイサービスにあるチェアー浴を利用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力を落とさないように一緒に楽しめる提案をして裁縫、庭の手入れ、畑作り、歌をうたう等をして楽しく過ごす様に支援している。		
		○日常的な外出支援			
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や紅葉見物に出たり、買い物やコーヒーを飲み喫茶店へ行ったり、またバスを借りて博物館へ出かけたりと体調に合わせた外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない支援として事業所の建物はデイサービス部門の建物と連結し建物内が広いので内部での散歩が出来、また敷地内には自由に散歩が出来る広いスペースが設けてある。 活発な行動をする入居者は職員が連携プレーで見守りをしている。		
		○災害対策			
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルを整備し避難通路も確保し、避難訓練は年に2回実施し消防器具の取り扱い訓練もしている。		地震対応の備蓄品の検討と地元町内会の協力が得られるように働きかけることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを参考にしながら栄養バランスを考えて入居者に合った食事を提供している。水分の補給は毎食事とおやつの際にお茶がコップで出ている。		高齢者は水分量の確保が特に必要で有り、介護記録表に記載することを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、食堂、居間が一体となった広々とした空間に入居者が作った季節の花の塗り絵や貼り絵等を展示し横の濡れ縁には植木鉢に四季の花を植えて季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族と相談し居心地良く過ごせるように馴染みの物を持ってきてもらい個人別に配慮した家庭と同じ雰囲気でも過ごせるように配慮している。		